

『統計検定準 1 級対応 統計学実践ワークブック』

(日本統計学会 編, 学術図書出版社)

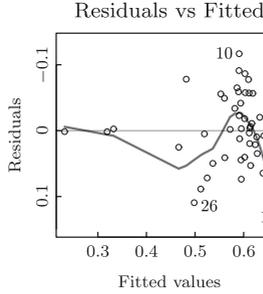
正誤表 第 1 版第 7 刷用

頁	場所	誤	正
8	下 8 行目	y の条件付き確率密度関数	Y の条件付き確率密度関数
16	13 行目	$\int_{-\infty}^{\infty} y f_{Y X}(y) dy$	$\int_{-\infty}^{\infty} y f_{Y X}(y X) dy$
65	8 行目	<p>「これを, 最尤推定量の漸近正規性 (asymptotic normality) という。」に脚注として以下を追加してください。</p> <p>なお, 漸近正規性をもつ推定量に対して, その極限分布の分散がクラメール・ラオ不等式の下限を達成することを漸近有効性と定義することもあるが, 分散の極限と極限分布の分散は一般には異なるので, 上記の漸近有効性の定義とは厳密には異なる。</p>	
66	問 8.3 の 1 行目	半径 r を	半径を
66	問 8.3 の 4 行目	このとき	コインの半径は平均 r の確率分布に独立同一に従うとき
69	4 行目	<p>「ある。」の後に以下を追加してください。</p> <p>ただし, これはコインの半径が平均 r の分布に従うと仮定したからであり, コインの面積が平均 πr^2 の分布に従うなら, 観測面積の平均を用いても問題ないことに注意。</p>	
82	2 行目	$\sum_{k=1}^c$	$\sum_{k=0}^c$
101	下 2 行目	7 人に与えられる順位の組合せ	群 A の 3 人に与えられる順位の組合せ
104	11 行目	割り振ったもの	割り振ったもの
105	3 行目	各群の順位和の平均	各群の順位の平均
105	14 行目	(x_i, y_i) と (x_j, y_j) ($i \neq j$)	(x_i, y_i) と (x_j, y_j) ($i < j$)
106	下 14 行目	6 人に与えられる順位の組合せ	A 群 3 人に与えられる順位の組合せ

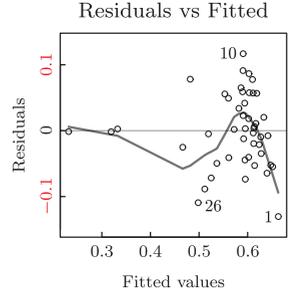
124 3行目

$$X_t = \sum_{i=1}^{N_t} U_k$$

142 図 17.5 左上



$$X_t = \sum_{k=1}^{N_t} U_k$$



166 下 14 行目

特性 (characteristics)

特性 (characteristics)

178 下 1 行目

$$2^{3-1} = 8$$

$$2^{4-1} = 8$$

185 下 2 行目

すべて調査単位

すべての調査単位

191 下 8 行目

修正項 $(N - n)(N - 1)$

修正項 $(N - n)/(N - 1)$

194 下 7 行目

$+\dots + (5 - 5.5)(5 - 4.5)$

$+\dots + (5 - 5.5)(4 - 4.5)$

198 例 2 [1]

小テストの結果を **図 22.1 のように** 第 1, 第 2 主成分で

小テストの結果を第 1, 第 2 主成分で

204 下 7 行目

$$(\hat{w}^T \bar{x}_1 + \hat{w}^T \bar{x}_2)/2$$

$$(\hat{w}^T \bar{x}^{(1)} + \hat{w}^T \bar{x}^{(2)})/2$$

210 2 行目

符合

符号

210 3 行目

$$\text{sgn}(f(\mathbf{x}) + t)$$

$$\text{sgn}(f(\mathbf{x}) - t)$$

242 1 行目

$|\phi| > 1$ ならば

$|\phi_1| > 1$ ならば

250 下 7 行目

周期が λ_1 から λ_2 の変動に帰着する変動

周波数 λ_1 から λ_2 に帰着する変動

282 12 行目

$$\exp\left(-\frac{(x_i - \mu)}{2\sigma^2}\right)$$

$$\exp\left(-\frac{(x_i - \mu)^2}{2\sigma^2}\right)$$

285 下 6 行目

アリゴリズム

アルゴリズム

317 下 10 行目

標準誤差を $\hat{\text{se}}(x)$ を求め

標準誤差 $\hat{\text{se}}(x)$ を求め